

Partnership (パートナーシップ)

～寄り添い 育み 切り拓き 明日を生きる～

令和6年6月10日(月) 発行 吉田 祐介

★植木北中学校ホームページ★

毎号の学校だよりをはじめとする
各種通信(お知らせ)のバックナン
バーもこちらでご覧いただけます。
緊急連絡等もお伝えします。



HPはこちら

今月(6月)は「心のきずなを深める月間」です

～これまでの「いじめ根絶月間」から「心のきずなを深める月間」へ名称が変わりました～

一人一人の人権を考えるうえで「いじめ」は大きな問題です。令和5年度の熊本市心のアンケートで「いじめを受けた」と回答した児童・生徒は約5000人いたという結果が出ています。このアンケートの中の「いじめ」で一番多かったのが「冷やか・からかい」だったそうです。ただ、軽はずみな言動からやがて深刻な事案に発展したケースも少なくありません。

相手の立場を考え、思いやりの心を持って他者に接することは、いじめの未然防止だけでなく、被害を拡大させないことにもつながります。

いじめを起こさないために自分たちにできること、いじめが起きた時に自分たちができること、いじめられていると感じた時のSOSの出し方等について真剣に考え、互いにきずなを深めながら、みんなが安心して生活・学習できる学校をつくっていききたいものです。

熊本市でも、この6月「みんながいじめをなくしていこう～おもいやりの心をもって～」をテーマにした取り組みを行っています。本校でも「①いじめのサインを見逃さない」、「②いじめが起こりにくい集団をつくる」、「③いじめを許さない環境をつくる」の3点を実現すべく、日頃より各学年、各クラスで授業をはじめとする、さまざまな取り組みを行っています。

いじめの解消や人間関係を見直すヒントとしてよく紹介される寓話をひとつ紹介させていただきます。

【ヤマアラシのジレンマ】

「寒い冬のある日、2匹のヤマアラシが凍えないようにピッタリとお互いの体を寄せ合いました。すると、互いにトゲが痛くなって離れてしまいます。次第に寒さに耐えられなくなって、再び寄り添いますが、痛いのでもた離れてしまいます。こうして、ヤマアラシは何度も近づいたり離れたりを繰り返し、ついに、お互いが傷つけ合わずに、ほどほどに温め合うことのできる距離を見つけました。」

これは、ドイツの哲学者のショーペンハウエルの寓話ですが、この話を精神分析学の創始者フロイトが人間関係の例えとして引用し、その後、精神分析医のベラックが「ヤマアラシのジレンマ」と名づけたものです。

「ヤマアラシのジレンマ」とは、互いに親密になりたいのに、相手との距離が近づくほどエゴがぶつかり合って傷つき、距離を取れば疎外感を味わうという人間の葛藤を表しています。つまり、相手との距離が近いと、相手への期待や要求が増えて求めすぎたり、自己主張ばかりが強くなって傷つけ合ってしまう、しかしまた、人間はひとりでは生きられず、社会の中で生きていく必要があるので寂しくもなるわけです。

中学生の皆さんを見ていると、友達との関係でも、家族との関係でも、このヤマアラシのジレンマにとらわれて悩んでいる人が多い気がします。親しい相手だからこそ、踏み込んだことを言ってしまったり、言われたりして、相手を傷つけてしまったり、自分が傷ついてしまったりすることがあります。このヤマアラシのジレンマから簡単に逃れることは難しいかもしれませんが、いくつかの対応策はあると思います。



ヤマアラシ

(1) まず「思い込みから自由になる」こと

「あの人は〇〇に違いない」や「あの人はきっと〇〇だ」という勝手な思い込みや決めつけをしないことが大切なのではないでしょうか。まず自分が「相手のことをよく知らない」ということを自覚することで、自分の考え方や相手に対する関わり方が柔軟になり、自分の見方や考え方が変わることも多いはずで

(2) 次に「相手の気持ちや立場を尊重する」こと

相手のことを大切にしている、相手の存在をリスペクトしているというメッセージが相手に伝わることが大切だと思います。大切な相手からの意見であれば、たとえ自分とは異なる意見を言われたとしても「そんな考え方もあるのか…」と柔軟に受け止めることができるようになるはずで

(3) 最後に「学校や教室を心理的に安全な空間にする」こと

「心理的に安全な空間」とは、生徒の皆さんが不安を感じたり、友達にからかわれたりせず、自由に自分の思いや考え、時には自分の悩みを口にできる場のことです。このような「開かれた居場所」としての学校や教室ができるように、一人一人が自分の行動や言動を見直していければ、あたたかい人間関係をつくっていくことができるはずで

■6月12日(水)に小中合同引き渡し訓練を実施します■

日本で多く発生する地震や水害などの自然災害に対処し、お子様の命を守るために、昨年度より小中合同での引き渡し訓練を行っています。今年度は6月12日(水)に実施します。

本校では、昨年に引き続き、引き渡し訓練の前に避難訓練を行います。今回の避難訓練は、大雨による河川の氾濫の可能性を想定したものです。昨年は大きな地震が発生したとの想定で、運動場へ避難する形を取りましたが、今回は水防(土砂災害)を想定しているため、避難場所も異なります。

12日(水)の「引き渡し訓練」は15:00から開始します。今後は当日(12日)正午ごろ「すぐーる」でお届けするメールにしたがってお子様のお迎えをお願いいたします。

昨年度の反省を生かせるよう計画を立てておりますが、当日は一方通行で校内へご案内することになりますので、校内に入っていた後、しばらくの間お待たせする時間帯が生じる可能性がありますので、ご了承ください。

また、災害がいつ起こるか分からないことを鑑み、昨年のような土曜実施ではなく、今回はあえて平日に実施させていただきます。ご多用のところ申し訳ありませんが、趣旨をお汲み取りいただき、ご協力をお願いいたします。



「新型コロナウイルス感染症」をはじめとする感染症対策をお忘れなく…

先週3年生が新型コロナウイルス感染症のため学年閉鎖となりましたが、もうすぐ梅雨入りかと思わせるこの時期の感染拡大でしたので、少々驚きました。しかし、主に冬に流行していた季節性インフルエンザとは異なり、コロナは感染の時期を選ばないことをあらためて思い知らされました。

社会でもコロナ後の生活様式がすっかり定着して、学校現場でもつつい油断しがちですが、今回の学年閉鎖の影響で3年生の中間テストが延期になったように、一度感染が拡大すれば、いろいろな所に影響が出てしまうことも事実です。本校においてもあらためて感染拡大防止のため取り組んでまいりますので、ご家庭においてもご協力くださいますようお願い申し上げます。